



# 過去最多の報告数、 今こそストップ梅毒！

令和4年7月6日  
富山県感染症情報センター  
(富山県衛生研究所内)  
(0766-56-5431 直通)

## 感染症発生動向速報

(令和4年第26週分・6月27日～7月3日)

### 《インフォメーション》

#### ●梅毒

性病予防法が施行された1948年以降、全国の梅毒患者報告数は大きく減少しました。1999年に感染症法に基づく5類全数把握疾患に切り替わり、2010年からは梅毒の報告数が増加に転じました。2021年には7,978例が報告され、感染症法施行以降、過去最多の報告数となりました(上図:折れ線グラフ)。年齢別では、男性は20～50歳代と幅広く、女性は20歳代に多くなっています。また、男女ともに異性間性的接触による感染が最も多く報告されています。2021年の人口当たり報告数は東京都、高知県、大阪府、岡山県、宮崎県の順であり、地方の県でも患者数が増加しています。富山県も例外ではなく、2021年に46例が報告され、過去最多となりました。また、今年は既に30例が報告され、昨年を上回るペースとなっています(上図:棒グラフ)。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。感染経路は、菌を排出している感染者との性行為が大部分を占めます。感染後、約3週間で発症しますが(下表)、無治療でも症状が消失してしまうため、医療機関を受診する機会を逸してしまふことがあります。無治療のまま放置した場合、第1期梅毒後数週～数年で髄膜炎などの早期神経梅毒が生じることがあります。また、数年～数十年後に、皮膚や骨にゴム腫や心血管梅毒、後期神経梅毒が認められます(晩期頭症梅毒)。感染した妊婦では、胎盤を通じて胎児に感染することもあります(先天梅毒)。

初期の症状である性器の潰瘍など、異変に気づいたら早めに医療機関を受診しましょう。また、感染が判明した場合、パートナーも感染している可能性があります。パートナーも早めに検査を受けることが重要です。感染予防のためには、不特定多数との性行為を避けること、適切にコンドームを使用することが基本です。また、梅毒はペニシリン系抗菌薬による治療が可能な疾患ですが、4～8週間の抗菌薬投与後に抗体検査により治療効果を確認する必要があるため、自己判断で治療を中断しないことが重要です。

早期頭症梅毒(第1期)	感染から約3週間後に感染部位の皮膚や粘膜に硬結ができますが、2～3週間で消失します。
早期頭症梅毒(第2期)	約3か月後には全身に赤い発疹(バラ疹)が出現します。この他に発熱や全身倦怠感など様々な症状が出現しますが、数週間～数か月で消失します。
晩期頭症梅毒	約3年以上経過すると、皮膚や粘膜、骨を中心としてあらゆる臓器にゴム腫と呼ばれるしこりができ組織を破壊します。また心臓や脳、脊髄など複数の臓器に病変が出現し、これらが死につながる場合があります。

### 《全数報告の感染症》

新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 651件(暫定値)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 4件(①第25週診断分:70歳代、女性、O157、VT2  
②20歳代 ③70歳代 ②③共に女性、O146、VT1VT2 ④80歳代、男性、O157、VT2)

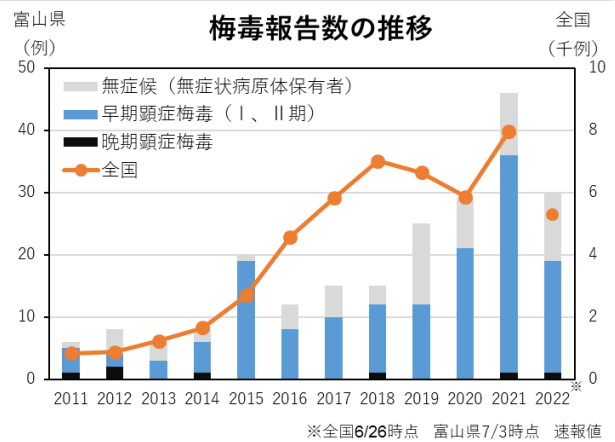
五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件(第25週診断分:50歳代、男性)

### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	3.62(↓)	4.55
2位	手足口病	1.52(↑)	0.97
3位	咽頭結膜熱	0.59(↑)	0.52
	突発性発しん	0.59(↑)	0.55
5位	ヘルパンギーナ	0.14(↑)	0.10
6位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.10(→)	0.10

富山県感染症情報センターURL: <https://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>  
お問い合わせ URL: [https://www.pref.toyama.jp/1279/kurashi/kenkou/kenkou/1279/#tmp\\_inquiry](https://www.pref.toyama.jp/1279/kurashi/kenkou/kenkou/1279/#tmp_inquiry)



○感染症発生動向調査報告状況（令和4年第26週 令和4年6月27日～令和4年7月3日）

分類	疾患	今週報告分（第26週）							累積報告数（令和4年第1週（1月3日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※2	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※2	計	
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	70	106	218	82	170 <sup>※1</sup>	5	651	3,340	2,898	8,758	3,292	17,172 <sup>※1</sup>	177	35,637	
二類感染症	結核								1	4	21	8	19		53	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2				1		3	2	1	4		7		14	
四類感染症	つつが虫病									1					1	
	レジオネラ症								3		8	2	9		22	
五類感染症	アメーバ赤痢										1		2		3	
	ウイルス性肝炎										2				2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										4	2	5		11	
	急性脳炎										2				2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症								3		5		5		13	
	後天性免疫不全症候群												1		1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1		2		3	
	侵襲性肺炎球菌感染症										2		3		5	
	水痘（入院例）												1		1	
	梅毒									2		6	3	19		30
	播種性クリプトコックス症												3		3	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症												1		1	
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										1				1	
	RSウイルス感染症			1				1	30	18	256	56	285		645	
	咽頭結膜熱		2	2	13			17	41	33	150	8	83		315	
			0.50	0.25	1.30			0.59								
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	1			3	27	10	97	22	163		319	
				0.25	0.10			0.10								
	感染性胃腸炎		20	8	48	2	27	105	478	557	1,478	540	1,623		4,676	
			5.00	2.67	6.00	0.50	2.70	3.62								
	水痘			1				1		8	32	1	25		66	
				0.13				0.03								
	手足口病			8	23	13		44	2	27	210	3	69		311	
				2.67	2.88	1.30		1.52								
	伝染性紅斑				1			1	1		4	1	4		10	
					0.10			0.03								
	突発性発しん			3	9	1	4	17	18	16	88	23	67		212	
			1.00	1.13	0.25	0.40	0.59									
ヘルパンギーナ		1		1		2	4	48	7	27	2	9		93		
		0.25		0.13		0.20	0.14									
流行性耳下腺炎								1		5	3	1		10		
流行性角結膜炎								8	2	6				16		
細菌性髄膜炎										1		1		2		
マイコプラズマ肺炎										1				1		
インフルエンザによる入院患者（※3）									1		3	1		5		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 県報道資料の判明日調査中は、公表前日を判明日とした暫定値です。 ※2 その他は県外、居住地非公表分です。  
 ※3 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週(9月6日)～の集計です。